

## 小学校 音楽科 部会

部会長名 添田町立真木小学校 校長 太田 優子  
実践者名 赤村立赤小学校 教諭 谷口 祐有季

### 1 研究主題

音楽のよさを実感し、自ら音楽を味わう児童の育成  
～音楽的な見方・考え方を働かせた交流活動を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 社会的要請と音楽科の今日的課題から

国際化、情報化、科学技術の発展、環境の問題など、社会の変化はこれまで私たちが経験したことのない速さで進み、先行き不透明な厳しい時代に入っている。このような時代において児童に必要なのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力である。また、自らを律しつつ、他人とともに協働し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性であり、そして、たくましく生きていくための健康や体力である。こうした状況を踏まえ、小学校音楽科においては、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指している。

- |   |
|---|
| <p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。</p> |
|---|

このような資質・能力を育成するためには、音楽的な見方・考え方を働かせることが必要であることから本主題を設定した。

#### (2) 児童の実態から

児童は、アンケートにおいて、95%が「家で音楽をよく聴く・ときどき聴く」と答えており、日常生活の中でもさまざまなコンテンツを通して、多様なジャンルの音楽に親しんでいることが分かる。音楽が好きかどうかでは、100%の児童が好きと答えた。その内訳については、「音楽を聴くのが好き」と答えた児童が90%、「楽器演奏が好き」「歌を歌うのが好き」と答えた児童はともに5%だった。よって、音楽を身近に感じ、聴くことが好きな児童が多いといえる。しかし、鑑賞の授業については「好き・興味がある」と答えた児童は50%しかおらず、理由も「なんとなく」「歌ったり演奏したりするよりはいいから」というものだった。また、鑑賞が苦手と答えた児童の理由は、「長い」「何がいいか分からない」「特徴を聞かれても分からない」というものであった。先にも述べたように、インターネット、SNSなどのさまざまなコンテンツの普及でたくさんの曲を簡単に聴くことができるようになってきている。中でもTikTokやInstagramなどは数秒間に聴き手を引き付けられない

と再生数が伸びないという特徴をもつため、曲のインパクトのある部分だけを切り取って使われている。本学級でも、曲全体を聴いて良し悪しを判断している児童はほとんどいなかったことから、インターネットや SNS が大きく影響していると考えられる。そこで、本研究を通して、音楽的な見方・考え方を働かせて音楽のよさを味わうことができるような児童の育成を目指したいと考えた。

### 3 主題・副主題の意味

#### (1) 「音楽のよさを実感し」とは

音楽をただ単に「よい」と感じるのではなく、よさや面白さ、美しさがどこから生み出されているのかを〔共通事項〕と関連させながら感じ取ったり聴き取ったりすることである。

#### (2) 「自ら音楽を味わう」とは

音楽を、速度や強弱などの音楽を形づくっている要素やその働きの視点で捉え、児童自身が感じたことと関連付ける活動を通して、児童が音楽のよさを感じ取り、主体的に音楽と関わることである。

#### (3) 「音楽的な見方・考え方を働かせる」とは

児童が自ら音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、捉えたことと生活や文化などを関連付けて考えることである。

ここでいう「感性」とは、音楽的な刺激に対する反応、すなわち、音楽的感受性のことである。また、音や音楽の美しさなどを感じ取るときの心の働きを意味している。「音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え」とは、音色、リズム、速度、反復、呼びかけとこたえなどの音楽を形づくっている要素を聴き取ることと、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることである。

### 4 研究の目標

音楽のよさを実感し、自ら音楽を味わう児童を育成するための方途として、音楽的な見方・考え方を働かせた協働的な学びの場を位置づけることの有効性を明らかにする。

### 5 研究の仮説

音楽的な見方・考え方を働かせた交流活動を位置づければ、音楽のよさや面白さ、美しさを生み出す要素に気付くとともに音楽への関心や意欲が高まり、主体的に音楽と関わることができるであろう。

### 6 研究の計画

題材	短調のひびき 「マルセリーノの歌」 「ハンガリー舞曲 第5番」	総時数	3時間	時期	11月
単元の目標	<p>○ 曲想及びその変化、調などの音楽の構造との関わりについて理解するとともに、ハ長調やイ短調の楽譜を見て、表現したり聴いたりすることができる。 【知識及び技能】</p> <p>○ 曲想及びその変化、調などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを</p>				

	<p>感じ取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図を持って曲全体を味わって聴くことができる。</p> <p style="text-align: right;">【思考力・表現力・判断力】</p> <p>○ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを伝え合うことを通して、他者の考えに共感したり、自分の考えと比較したりすることで、主体的・協働的に音楽活動に取り組んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【学びに向かう力・人間力】</p>
--	--

時	学習活動	評価基準及び評価方法
1	「マルセリーノの歌」の主旋律を歌ったり演奏したりし、短調と長調の特徴について考える。	「マルセリーノの歌」の曲想と調などの音楽の構造について理解している。 (観察・記述)
2 本 時	「ハンガリー舞曲第5番」を聴き、曲の魅力を交流することを通して、速度や調性などの曲の魅力を考える。	短調や長調の響き、速度の変化、反復などの特徴に気付き、楽曲のよさを味わって聴くことができる。 (観察・記述)
3	色々な演奏形態の「ハンガリー舞曲第5番」を聴き、紹介文を書く。	曲想及び変化、調などの特徴にふれながら「ハンガリー舞曲第5番」の紹介文を書くことができる。 (観察・記述)

## 7 指導の実際

### (1) 主眼

鑑賞曲「ハンガリー舞曲第5番」を、部分に区切ったり、指揮やリズムうちをしたりしながら聴き、自己のイメージを交流する活動を通して、短調から長調へ変化する旋律や響き、速度の変化などの曲の魅力を感じ取ることができる。

### (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点 ◇評価
導 入	<p>1 昨年度「送る会」で歌った曲「正解」の魅力を発表する。</p> <p>2 ハンガリー舞曲全集の冒頭部分を聴く。 ・激しいから ・色々なところで使われているから</p> <p>めあて</p>	<p>○ 楽曲にはそれぞれよさがあることに気付かせるために、馴染みある楽曲のよさを振り返る場を設定する。</p> <p>【問いづくり】</p> <p>○ 「ハンガリー舞曲第5番」がなぜ有名なのかという問いを持つことができるように、ハンガリー舞曲全集の冒頭部分を聴かせ、「なぜ5番だけ有名なのか。」を問う。</p>

	<p style="text-align: center;">「ハンガリー舞曲第5番」の人気の秘密を探ろう。</p> <p>3 「ハンガリー舞曲第5番」を聴き、その魅力を考える。</p> <p>(1) 曲の特徴を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暗い・途中から明るい</li> <li>・速くなるところがあるなど</li> </ul> <p>(2) 特徴を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早くなったり遅くなったりしている・短調と長調が出てくる・同じメロディーがあるなど</li> </ul> <p>(3) 「ハンガリー舞曲第5番」の魅力をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短調と長調が交互にでてくるから心に残る。</li> <li>・速度の変化があって楽しい。</li> </ul>	<p>【思考づくり】(着眼1 かく活動の工夫)</p> <p>○ 特徴を意識して聴くことができるように、楽曲の魅力を書き込んだり○で囲んだりできるワークシートを準備する。</p> <p>(着眼2 交流する場の工夫)</p> <p>○ 短調や長調の響き、速度の変化、呼びかけと応答などの特徴に気付かせるために、部分ごとに区切って特徴を交流したり、交流内容を視覚的に表したりする。</p> <p>【価値づくり】</p> <p>○ 曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができるよう、学習を振り返り、楽曲の魅力をまとめる場を設定する。</p> <p>◇ 短調と長調の旋律の響き、速度の変化、反復などについて楽曲の魅力をまとめることができる。</p>
<p>終末</p>	<p>4 本時のまとめと振り返りをする。まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">人気の秘密は、いろいろな変化を付けていることや、呼びかけと応答などの工夫にあった。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人気の秘密は短調と長調の変化にあることが分かった。</li> <li>・いろいろな変化を付けているから、聴く人の心に残ることが分かった。</li> </ul>	<p>○ 本時の学びの変容を自覚し、次時へつなげるために、振り返りを書く場を設定する。</p>

## 8 研究のまとめ

### (着眼1) 問いづくりの工夫

#### ① 手だて

曲の魅力について考えたいという意欲を持たせるために、昨年度送る会で歌った曲「正解」のよさを振り返ったあと、全21曲あるハンガリー舞曲の中でなぜ5番だけが有名なのかという問いを持たせる場を設定した。

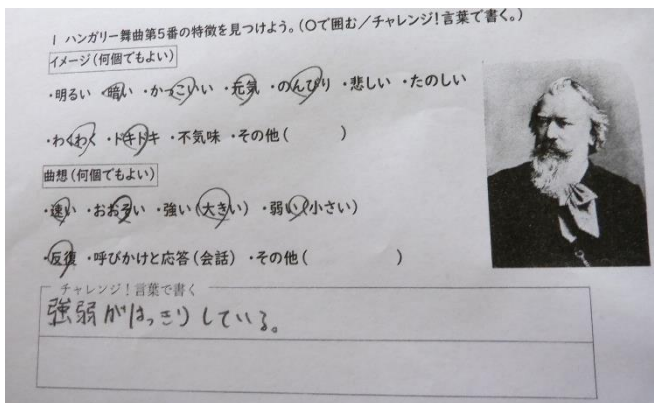
#### ② 実際

「正解」は、昨年度送る会で歌った大切な思い出の曲だったので「メロディーがいい」「歌詞がいい」など興味を持ち、「楽曲のよさ」に着目することができた。その後、ハンガリー舞曲は21曲あること知らせ、全21曲の冒頭部分を聴かせたことにより、なぜ5番だけが有名なのかと疑問を持ち、本時の課題をつかむことができた。

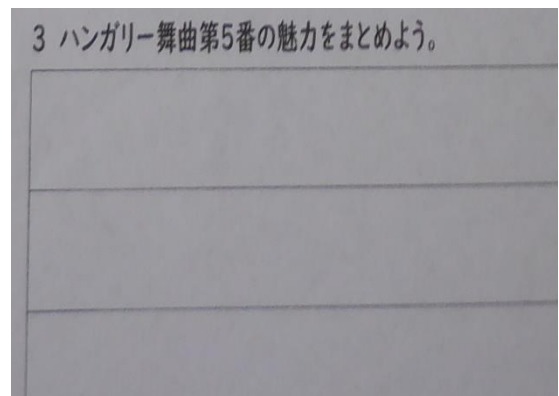
(着眼2) 自分の考えを書く活動の工夫

① 手だて

- 展開前段では、特徴を意識して聴くことができるように、楽曲の魅力を書き込んだり○で囲んだりできるワークシートを活用した。【資料1】
- 展開後段では、交流内容を振り返り、自分の考えをまとめられるような時間を設定した。【資料2】



【資料1】



【資料2】

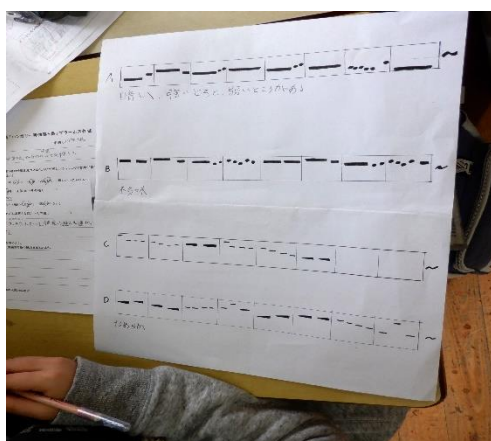
② 実際

- ワークシートは、楽曲の特徴を「イメージ」と「曲想」に分けて記載し、楽曲の特徴を言葉で表現することを苦手だと感じている児童のために、複数の項目から選んで○を付けられるようにした。文章で記入できる児童は記入欄を活用できるようにした。文章で書くことができた児童は50%だったが、選択肢から選び○で囲むことは全児童ができた。○を付けられるようなワークシートにしたことは、どの児童も自分の考えを持って学習に臨むことができたので有効であった。
- 展開後段では、グループや全体で交流したことをもとに、自分の最初の考えに付け足したり変更したりして楽曲の魅力をもとめようとする姿が見られた。

(着眼3) 自分の考えを交流する場の工夫

① 手だて

短調や長調の響き、速度の変化、呼びかけと応答などの特徴に気付かせるために、部分ごとに区切って特徴を交流したり、交流内容を視覚的に表したりした。



【資料3】グループ交流の様子

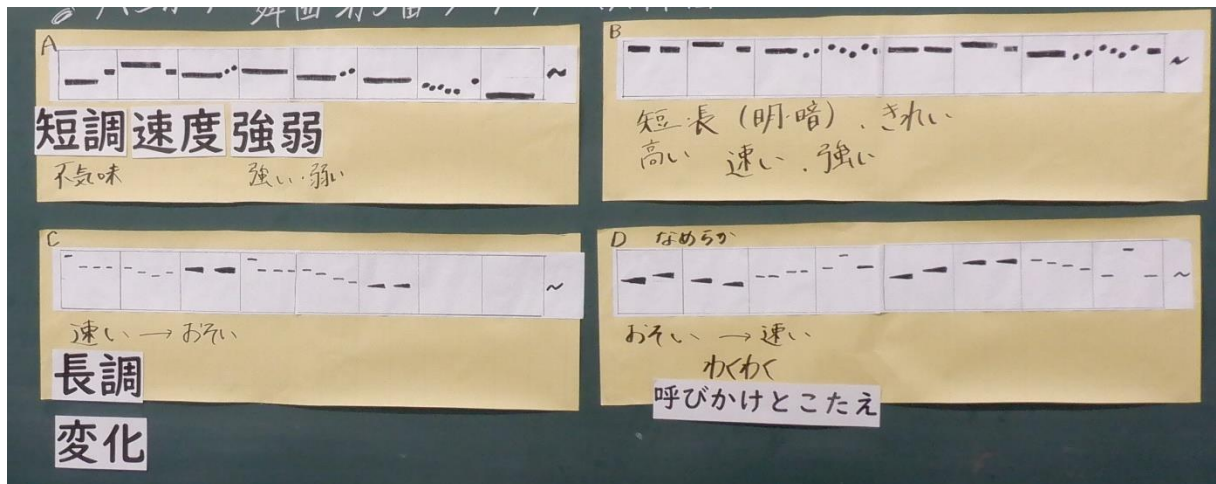
図形譜 A~D に気付いたことを書きこんでいる。

- ・ 暗い・強いところと弱いところがある
- ・ 不気味な感じ
- など

### 【資料3】

#### ② 実際

楽曲をAからDまでの4つの部分に区切って視覚化したことで、どの部分にどんな特徴があるのかを明確にしながらか交流することができた。【資料4】



【資料4】

- ・ Aは暗いイメージだから短調、速度は速い
- ・ Bは途中から遅くなる
- ・ Cは長調になった
- ・ Dは大きくなったり小さくなったりしている、速さが変わっている、「ブオーブオー」「トゥットゥツ」が交互に出てくる。

楽曲を視覚化したことは、どこの部分のことを話しているのか明確にできたので、自分の考えを伝えたり相手の考えを知ったりするために有効であった。本時のねらいでもある調や速度の変化も視覚的にとらえることができた。しかし、A～Dまでを同時に提示して交流させたことで混乱する児童もいたので、「最初はAについて交流する」というように区切って交流させた方が視点を絞って交流することができたのではないかと考える。また、スムーズに交流を進めるために、図形譜をタブレットで並べ替えさせたり、楽譜を読み込んで音にするアプリを活用したりすることも必要である。

#### 9 成果と今後の課題

- 音楽的な見方・考え方を働かせるために図形譜を用いて交流したことで、どの部分の特徴について意見を言っているのかが明確になり、音楽を形づくっている要素を視覚的に捉えることができた。そのことは、本時の主眼でもある「調や速度の変化」に気付くことにつながったので有効であった。
- 音楽を形づくっている様々な要素に気付かせるためには、意見を比較しながら交流した方がよかった。部分ごとに区切り、視点を絞って交流させる等の手立ての工夫が必要である。

◎ 参考文献

文部科学省 中央教育審議会

文部科学省 小学校学習指導要領解説書 音楽編